



八月八日は 屋根の日



屋根の日は、漢字の「八」が屋根の形に似ていることと、屋根の「屋(ヤ=八)」を重ねると瓦を重ねたようすに似ていることから、2003年に一般社団法人全日本瓦工事業連盟によって制定されました。この機会に高浜市の地場産業でもある瓦について、知識を深めてみましょう。

問合せ先 関経済環境グループ ☎52-1111(内線271)

特集

おしらせ

情報ファイル

催し・募集

三州瓦のふるさと西三河

愛知県では全国の67・6パーセントの瓦が生産されており(平成28年現在)、全国最大の産地となっています。その大部分が高浜周辺で作られる三州瓦です。近くで瓦に適した粘土が採れたこと、船による運送が容易な場所であったことなどから、瓦産業が発展したといわれています。かつては東京をはじめ関東地方を主な出荷先としていた三州瓦ですが、今はその品質の高さから、関西や東北、北陸、九州など広い範囲に流通するようになりました。鉄道や自動車普及するまでは船での輸送が主流で、そのころのようすを描いた絵馬(高浜市指定文化財『高浜湊図』)が春日神社に残されています。平成18年に特許庁が地域ブランド(地域団体商標)の登録を行った際、愛知県内で唯一「三州瓦」は認められました。



▲「高浜湊図絵馬(写)」
〈原本 高浜市・春日神社蔵〉
原本 天保14年
春日神社の「御神船」を先頭に白帆をかけた18艘の船が高浜湊をバックに描かれています。

鬼板師(鬼師)の活躍

江戸時代末期、三州の瓦が大きく発展し、たくさん職人がたずさわるようにになると、鬼瓦を専門に作る鬼板師(鬼師)が生まれました。鬼板師は鬼瓦や留蓋瓦に美しく複雑な飾りをつけます。高浜の鬼瓦の元祖ともいわれる三州鬼瓦の名工山本吉兵衛は、十数名の弟子を育て現在の鬼瓦業界の基礎をつくり、その弟子たちが、吉兵衛をたたえ「三州流鬼瓦恩師 山本吉兵衛碑」を建てています。



▲山本吉兵衛碑
青木町三丁目に現存



▲獅子文留蓋瓦
〈山本吉兵衛作 刈谷市・松雲院使用〉
印蓋に山本吉兵衛の刻印があります。力強い獅子の表現が印象的です。

国の伝統的工芸品に指定 三州鬼瓦工芸品

平成29年11月に「三州鬼瓦工芸品」が経済産業大臣指定伝統的工芸品となりました。

魔除け、厄除け、繁栄や富の象徴であった鬼瓦が、庶民の暮らしのなかに取り入れられ、床の間飾りや玄関飾りへと用途を広げてきました。

近年では、国宝・重要文化財などの復元も三州の鬼師が手がけています。



伝統的な鬼瓦から
遊び心あふれるイクステリアまで
瓦の用途はいろいろ。